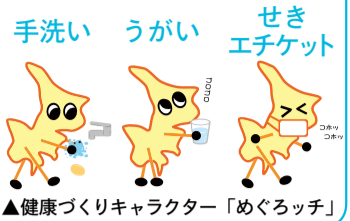


- 2・3面 区の財政状況
- 4・5面 特集「人権について考える」
- 6・7面 情報ボックスほか
- 8面 チャレンジめぐろ、くらしの相談、自転車置場利用登録受け付け、年末年始の交通事故防止



あなたは あなたのままでいい

もう一度、 社会へ踏み出すために

61万人。 全国の40～64歳のうち、さまざまな要因で6カ月以上自宅にひきこもる状態にあるかたの人数です。ひきこもりのかたの多くは家族以外との接触は少なく、社会との交流も希薄になり、孤立した生活を送っています。中には「怠けている」などと周囲から心ない言葉を掛けられ、自信を失ってしまっているかたもいます。

区は、ひきこもり状態で不安を感じている本人や家族などが抱える悩みに寄り添い、サポートを行うため相談窓口を設置しています。もう一度、人や社会とつながって安心できる生活を送れるよう、一緒に考えさせてください。

☎福祉総合課ふくしの相談係 (☎5722-9064、☎5722-9062)

ひきこもり相談窓口

いつでも相談できます

事業名	日時	内容	場所・問い合わせ
福祉の相談窓口	月～金曜日 8:30～17:00 (祝・休日、年末年始を除く)	保健福祉に関する相談 *どこに相談したらよいか迷うときはこちらへ	総合庁舎本館 2階福祉総合課 ふくしの相談係 (☎5722-9064、☎5722-9062)
		生活に困窮しているかたの自立支援	くらしの相談係 (☎5722-9370、☎5722-9062)
保健相談		保健師による相談	総合庁舎本館 3階 保健予防課保健相談係 (☎5722-9504、☎5722-9508) 碑文谷保健センター 保健相談係 (碑文谷 4-16-18、 ☎3711-6447、☎5722-9330)

予約が必要です

事業名	日時	内容	申し込み・問い合わせ
精神保健相談	原則毎月2回。12月は12(木)13:30～15:30・25(水)9:30～11:30に実施	精神科の専門医による相談	総合庁舎本館 3階 保健予防課保健相談係 (☎5722-9504、☎5722-9508)
	原則毎月1回。12月は13(金)13:00～14:30に実施		碑文谷保健センター 保健相談係 (碑文谷 4-16-18、 ☎3711-6447、☎5722-9330)
思春期・青年期の親の会	原則毎月第3月曜日 13:30～15:30。 12月は16日(月)に実施	ひきこもりや不登校など、子どものことで悩む親がミーティングを通して学ぶ会	総合庁舎本館 3階 保健予防課保健相談係 (☎5722-9504、☎5722-9508)
依存問題等家族相談	原則毎月第3金曜日 13:30～15:30。 12月は20日(金)に実施	依存問題などについて、家族がミーティングを通して学ぶ会	

相談者の声

- 「ずっとどこに相談したらいいかわかりませんでした。母がこの窓口を教えてくださいました。本当に親身になって話を聞いてもらっています」(50代・男性)
- 「家族から働きなさいと言われ、窓口に連れて行かれました。仕事をする自信が持てず、自分でもどうしたらよいか分からず、ひきこもっていましたが、ここでは病気や生活の相談に継続的に乗ってもらっています」(20代・女性)

ひきこもり相談会

匿名での相談可

東京都ひきこもりサポートネットの専門相談員が、ひきこもりに関する悩みをお聞きします。本人だけでなく、「子どもの将来が心配」など家族からの相談も伺います。

日程 ①12/9(月)②12/25(水)
時間 10:00～17:00のうち1人45分程度
会場 総合庁舎(詳細は予約時にお伝えします)
対象 区内在住で、ひきこもりなどで自立に困難を抱える15歳以上の本人または家族
申し込み方法 電話で、①は12/2②は12/18までに、東京都ひきこもりサポートネット(☎0120-529-528。月～金曜日10:00～17:00)へ

講演 「8050問題の向き合いかた ～当事者に寄り添う支援を考える」

☎目黒区社会福祉協議会 (☎5708-5792)

「8050問題」とは、80代の親が50代のひきこもり状態の子どものことを支えることなどを指し、経済的な困窮や社会的な孤立等さまざまな問題を意味します。

日時 2年1/15(水)18:00～20:00
会場 田道住区センター(目黒1-25-26 田道ふれあい館内)

内容 講演とグループトーク
講師 ジャーナリスト 池上正樹氏(下写真)ほか
定員 50人(先着)

申し込み方法 電話またはFAX(住所、氏名、電話・FAX、あれば職種を記入)で、目黒区社会福祉協議会(☎5708-5792、☎3711-4954)へ

